

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

N.O. 99

2025.12.31 発行

編集責任者：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

99回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『商店街の再生を考える—鳥居松商店街の取り組みを中心に—』

講師：河地 清 氏（「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長）

日 時：令和7年9月28日（日）PM13時30分～16時

場 所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）

「商店街」は、やがて消滅していくべき過去の遺物であり、すべて郊外ショッピングモールにとって代わられる存在なのであろうか。活気や賑わいのある中心市街地といったものは、ノスタルジーにすぎないのだろうか。商店街は、過去の遺物ではなく、新たな動きがみえはじめている。若い世代がカフェやコワーキングスペースなどコミュニティーの拠点として商店街に関心を向け、車で買い物へ行くのが難しい高齢世代が商店街に足を向ける流れも出てきた。（広井良典編『商店街の復権—歩いて楽しめるコミュニティー空間—』より）鳥居松地域の商店街は、今後どのように風景が変化してゆくのか、鳥居松商店街の取り組みを中心と考えてみます。日本産業科学学会全国大会（於：8/30 大阪成蹊大学）での研究発表の報告と学会等からの意見・具体的提言・提案も発表されました。参加者は、15名でした。

2025年7月20日（日）



Vol49 鳥居松商店街 PRESS2025.7.20 より

鳥居松商店街の取り組み「街角メッセージ」

《発表要旨》

はじめに(日本産業科学学会全国大会(於:8/30 大阪成蹊大学発表内容を中心に)

「まちづくり」「地域活性化」の方法を巡っては今まで多くの先行研究および事例が提起されてきている。そのなかで、近年は、地域資源を活かした活性化、「まちづくり」の方法が定式化しており、実績も多く見られるようになってきた。さらに、新しい論点として愛着形成＝「ふるさと意識」の醸成こそが「地域活性化」の重要な要素であるとの研究も出されてきた。従来の経済理論だけでは「地域活性化」の方法を定式化してゆくことは出来ない。特定地域の歴史、文化、自然を総合的な視点で捉える価値観と、地域を構成している人々の内発的意識（ふるさと意識）の醸成の基盤の上で「地域活性化」の問題を考察することが本質的方法ではないかと考える。本報告では、「ふるさと意識」（愛着・誇り・identity）が「まちづくり」「地域活性化」の本質的方法論であるとの仮説を立て、愛知県春日井市鳥居松地域における商店街活性化の取り組みの実践を通じて、「まちづくり」「地域活性化」の本質的方法を実践し検証を試みたものである。

キーワード：「ふるさと意識なくして地域活性化なし」

地域資源、愛着の形成、ふるさと意識の醸成

I 課題と問題提起

- 今日的状況の中では、「商店街」が単独で、または、個々の商店が個別に努力しても、その努力を越える社会的状況変化の中では、全く新しい発想と「商店街」という言葉に固執しない柔軟な地域活性化の方法を模索することが求められていることが現実的課題となっています。

従来の「商店街」の活性化経済活動が活発であることが、「街の活性化」とは言い切れない、住み易さと快適さは別にあることを認識する。教育・医療・介護・子育て・コミュニティの充実が「地域の活性化」に繋がる。中心市街地の活性化と商店街の活性化がイコールでは無いことを考えると、これから的是非の「商店街」とは何か、再定義をする必要があるのではないか。（『第10回フォーラム「高蔵寺地域の再生－高齢化社会と地域再生への取り組みー』2013.12.1 高蔵寺商店街振興組合理事 青山博徳 氏証言）

- 『地域に住む住民は「消費者」で在る前に「生活者」であり、生活の豊かさの中の1つが消費であり、それが絶対的なものでは無い。経済活動が活発であることが、「街の活性化」とは言い切れない、住み易さと快適さは別にあると、全国を歩き心底感じています。徒歩圏にコンビニがあり、ドラッグストアがあり、アマゾンと宅急便が翌日配送の場所なら、商店街の活性化より先に地域で取り組む課題は多々あります。医療・介護・子育て・コミュニティの充実が「地域の活性化」に繋がるのではないか。全店舗参加可能型の、ハードルを下げる商店街エリア全体での開発ではなく、やる気のある、気概のある、売る気のある個人商店への重点的な選択と集中を旨とした、経済施策でないといけないと感じ

ております。「カネが出れば知恵が引っ込む、法に守られれば努力しなくなる」の通り、補助金漬けの商店街支援策で、結局は骨抜きになった商店主は、見限り、自主独立の気概をもった経営者のチャレンジに行政が法律や条例で「邪魔」をしないことが一番だと思います。』（『第39回フォーラム「ふるさと春日井「まちづくり」の風景』2016.4.3 愛知県連合会の青年部長・全国商店街連合会青年部副部長 春日井市商店連合会副会長 青山博徳氏証言）

・『・・・この地域は、何で活性化するとよいかを見つけてほしい、詰まるところ、その地域の人々の意識と創意工夫に掛かっている』（『第39回フォーラム「地域活性化・地域商業活性化・商店街活性化の課題』2016.4.3 名古屋学院大学教授 岡田千尋）

II 地域活性化に向けての提言

「ふるさと春日井学」研究フォーラムの提言活性化の課題・問題点

①ここで生きて行くという覚悟・決意・愛着・誇り・Identity ②現在の問題点の把握（後継者・地権者老齢化） ③地域の歴史・文化を共有する=「ふるさと意識」の醸成

具体的提言 ①空き店舗の有効活用（書道文化関連の業者誘致） ②地域の観光化・下街道市の開設・文化、歴史ウォーキング ③駅前シンボル（モニュメント）と導線整備 ④「街角メッセージ」書道展（街中ギャラリー） ⑤書道まつり（道風まつり）若者主体で企画

活性化の種まき ①夏まつり（地域の風物詩）で地域の協働 ②「街角メッセージ」の取り組み継続 ③下街道・郷土館保存への地域住民の意思（歴史資産活用） ④「書のまち」としての環境づくり（美術協会との協賛事業）文化フォーラム、道風記念館を活用した活性化を考える

III Chat GPT の提言

活性化の課題・問題点 ①シャッター街化の進行。昔からある商店が高齢化や後継者不足で閉店、空き店舗増加 ②風景は良くなつたが経済的な賑わいにはつながっていない。

「街角メッセージ」のように空間演出はされている。③地域愛・愛着はあるが、経済循環が生まれていない。地元の人の地域愛、文化の継承もあるが、日常の消費や商い、若者の起業などにつながっていない**鳥居松地域の活性化の鍵** ①「空き店舗×地域資源」の再活用（書道文化をビジネスに） ②空き店舗を書道文化に特化したギャラリー、カフェ、体験教室、観光案内所として再生。③「書のまち」というテーマ性は他地域にない強み。観光+教育+ビジネスの運動が鍵 ④文化資産×まち歩きツーリズムの整備、書道だけでなく、下街道沿いの旧蔵屋、観音堂、郷土館などの観光資源スタンプラリー、メッセージのデジタル化で、滞在時間、回遊性をもたらす。

IV 「ふるさと意識なくして地域活性化なし」

拙稿、修文大学紀要（Bulletin of Shubun University），No. 8, pp. 133-160

(2016) 論文で、『地域振興・地域活性化の基本的考え方とは何か、「ふるさと」概念と「地域創生」「地域再生」とはどのように関連しているのか、従来の「まちづくり」概念と新しい発想による「まちづくり」の発想とはどのように違うのか、「地域活性化」の方法を巡って今まで多くの先行事例や先行研究が提起されてきている。しかし、定式化した実践や理論は示されていない。従来の経済理論だけでは「地域活性化」の方法を定式化してゆくことは出来ない。特定地域の歴史、文化、自然を総合的な視点で捉える価値観と、地域を構成している人々の内発的意識（ふるさと意識）の醸成の基盤の上で「地域活性化」の問題を考察することが本質的方法ではないかと考えるからである。本論文は、市民活動「ふるさと春日井学」研究フォーラムの実践活動を通じて「地域活性化」の要件となる証言資料、実践的知見、検証等をもとに、「地域活性化」の本質的方法論を試論した実践報告論文である。キーワード：「ふるさと意識なくして地域活性化なし」地域活性化、ふるさと学ふるさと意識の醸成』であることを述べた。ふるさと意識醸成の活動は、市民活動「ふるさと春日井学」研究フォーラムによって現在継続中である。鳥居松地域は、5つの商店街（鳥居升商店街振興組合、広小路障害組合、下街道商店会、春日井駅前商店会、鳥居松銀杏並木商店組合）の集積する商業圏地区である。地域のまちづくりも、この地域の特色、魅力を生かした取り組みが定式化どおりの実践になる。この10年来は、鳥居松商店街振興組合が中心となって、市のランドマークである「書のまち春日井」の特色を生かす実践に取り組んでいる。今年で12年目なる「街角メッセージ」の実践である。地盤沈下、シャッター街化してゆく地域に元気と活力を取り戻し、新しいまちづくりのきっかけになればと始められた取り組みである。地域の特色・魅力を生かした地域の人たちの内発的発想によるものである。

毛筆で書かれた言葉をステッカーにして、約300の街路灯に貼付して、行き交う人々に見てもうというもののメッセージ性のある言葉の力と毛筆の力が人々の心と意識に影響を与えていたのは、検証する必要があるが、「書のまち春日井」ならではの特色あるとりくみとして注視されている。当初は、地域学区内の八幡小学校6年生に卒業記念として全員に揮毫してもらうことから出発した事業は、今日、市内の高等学校書道部7校中部大学書道部、春日井警察署内書道愛好者の署員、春日井市長、市議会議長と広がりをつくりはじめている。

V 地域活性化の先行研究（理論）

84回、93回会報で紹介しているので省略します。（参照して下さい。）

まとめ

商店街エリア全体での開発ではなく、やる気のある、気概のある、売る気のある個人商店への重点的な選択と集中を旨とした経済施策と環境づくりが実施されることである。学会での「なぜシャッターを開ける努力をしないのか」という質問は本質を突く意見として直近の課題としなければならないと感じた。

（記録・編集：河地 清）

OPINION

-書のある商店街の風景-

地域の活性化 愛着が大切

産業科学学会部会 春日井・鳥居松の実例紹介

研究を報告する河地さん＝
春日井市松本町の中部部会で

が互いの専門知識を共有する」を目的に、県内で発足。全国に各地域の部会が設立された。中部部会は年3回開かれている。

修文大学（一宮市）の非常勤講師の河地清さん（82）は、春日井市鳥居松地域の商店街が再生に向けて実践している町づくりを例に挙げ、「地域活性化の本質的方法論について報告。

「その地域への愛着と住民のふるまこと意識を醸成することが、地域活性化の本質的方法である」と説明した。

（伊藤純平）

本年度の日本産業科学会の第1回中部部会が14日、春日井市松本町の中部部会であった。中部地方の大

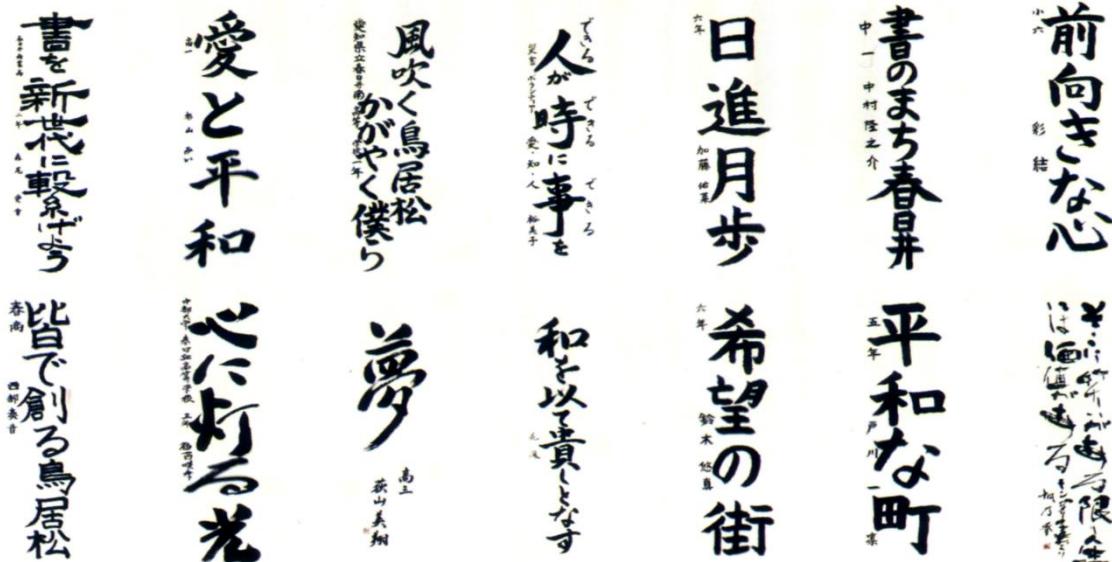
学教授など6人が、日、うの研究を報告した。

日本産業科学学会は1995年、日本産業の研究者

日本産業科学学会中部部会発表の様子（2025.6.15 中日新聞記事）

『くらのニュース』記事より

春日井くらしのニュース (2025.3.13)



(編集 : 河地 清)

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学 検索